



出張報告書

令和8年4月23日

尼崎市議会議長 様

会派名 公明党
 代表者氏名 福島さとり
 出張者氏名 上田さおり

このたび、出張しましたので、次のとおり報告します。

- 1 出張期間 令和8年3月31日から令和8年3月31日まで
- 2 結果の概要

用務先 京都JAビル	報告事項 (この欄には要点を箇条書きにし詳細事項がある場合は別紙添付) 1 歳出の基礎 2 財政危機の基礎 3 4 5
添付書類 ■研修報告書1部 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	備考

- 3 届出事項の変更等 なし あり (内容は裏面に記載)

旅費の精算

精算額は、令和8年2月17日届け出た額 (1,920円) と同一額である。

届出事項の変更等により、別途精算する。(精算額は裏面に記載)

(裏面)

届出事項の変更等の内容

変更等の事項と理由

支 出 額	
精 算 額	
支出 差引 額 戻入	

変更前と後の日程

	月	日	日	日	日	日	日
前 発着地							
後							
前 経 路							
後							
前 用務先							
後							
前 宿泊先							
後							

【研修報告書】

報告者 上田さおり

日時:令和8年3月31日(火)

研修先:京都府 京都市 京都 JA ビル

財政のプロから学ぶ 基礎研修

10:00~12:30【歳出の基礎】 ・歳出の基礎・事業の作り方・財政課の査定から学ぶ
・歳出減対策・やりたい事業はたくさんある

13:30~16:00 【財政危機の基礎】・本当に財政危機なのか・人件費の一律カットは愚策
・財政の無理解が勘違いを生む

講師: Office aNueNue 代表 今村 寛氏

報告者: 上田さおり

概要:元福岡市の財政局財政調整課長の今村寛氏は職員向けや他自治体へ財政の出前講座を行ってきた。何故財政が厳しいのか、どこにお金が足りないのか、の本質への理解が大切だと訴える。厳しい財政状況の本質や対処方策は同じで全体最適を『対話』によって導くことが方策であると。

一般財源総額と経常的経費の見直し

福岡市の例を挙げて10年間の変化を見ると一般財源総額は大きな変化はなくゆるやかに増。一方、経常的経費は一般財源の伸びを上回り、社会課題解決のために新たに投じる経費である“政策的経費”に使える財源が次第に減少していくことが分かる。政策的経費を保つには新たにやめるという政策決定をする必要がある

財政が厳しい＝経常的経費がない ということ

政策的経費はなぜ必要なのか

→自治体に定められた基本計画(マスタープラン)に定められた将来像を実現するため実現できなければ市民との約束を破ることになる



政策的経費の財源を確保するため経常的経費を見直す

『財政健全化』

何を削るかでなく“何を残すか”を大切に。

削減は成果ではない

一律削減はとても危険。目的意識の喪失 行政改革そのものが目的化してはいけない

事業の査定で重要なポイント

① 何がどうなることを期待しているか ②誰が求めているか ③市がやらなければいけないのか

証拠に基づく政策立案(EBPM)後も段階ごとにチェックが必要

- ・課題は何か、目標は何か、長期的な目標には中間アウトカムを設定する
- ・自治体間競争は危険。わが街の状況に合わせて。よい例は参考にする

政策は社会を『ありたい姿』に変化させる具体的行動である

Todoではなく Tobe

財政力指数＝地方自治体が標準的な行政活動を行うために

必要な財源をどの程度自力で調達できるかを示す指数

経常収支比率＝財政・資金繰りの硬直度(余裕)を示す指標

要するに・・・[毎年度決まった収入で決まった支出をどれだけまかなえているか]

わが市 尼崎市はどうか・・・？

《(尼崎) 財政力指数0.81 経常収支比率96.1

財政力指数は収入があるかどうかの指標。実際の支出との均衡が保たれなければいけな

い。経常収支比率は他都市と比較せず過去と比較する、また優先順位の最適化を

数字だけだ見るのではなく一つの指標として参考にしながら中身を見ていくことが大切

《対話が大切》

- ・未来の市民と対話する思いで未来の市民の立場に立ち未来の市民に成り代わって現在の意思決定に参画する。
- ・未来の市民が見ているであろう世界を可能な限り予測し、考えられる変化への対応について必要な対策を講じる。
- ・決定に至る過程をできるだけ文書で残し、未来の市民が後世に検証できるようにする。

所感

財政は数字だけでなくお金をどのように使っていくかだということを改めて気付くことができました。

よく耳にする「財政が厳しい」ということの本質を学ぶことができました。

わが市の展望を考えると時に他都市の事例を見たり比較をしますが、我が市の特徴状況もしっかり踏まえながら実情に応じて政策提言もしていかなければいけないということ、そして市民の代表である私たちは市民の皆様とともに行政を読み解いていく、理解してもらえよう活動をしていかなければいけないと思いました。今村氏は対話が大事ということを言われていました。我が市の財政を知って、誰もが当事者意識をもって市政へ参画できるように議員として対話を大事にして活動を続けていきます。